蓬麓の雲をふみ、竹園に望て令書のうけ給を事とせし人にていまそかりけるが、身くるしくまどしく侍りて、忠勤かれ〳〵になりて、里かげに侍けるなり、さかあるに、年なかばたけて後、初めて一の男子をまふけてけり、みめことがらのわりなさに、父母のいとをしむ事、今一きは色をましして、明けても暮ても夫婦の中におきて、世のまづしく悲しきわざをも、是にてなぐさみ侍りけるに、はからざるに夫世心ちに煩て身まかりにけり、女もおなじみちにと悲しみ侍りし事、理りにもすぎて見え侍りけれど、日數のつもるまゝに、思ひもいさゝかはるけ侍りめるに、世の中のいとゞたえ〳〵しさに、いける心ちもせで、朝夕はねをのみなきて侍けり、此子十一と云年、母にいふやう、たえ〳〵しき有さまに、我をはごくみいとなみ給ふも悲しく侍り、又かくても行すゑいかなるべしとも覺え侍らねば、はやく我にいとまをゆるしたまへ、水のそこにも入か、また物をも乞ても、遠方にまかりなんと、かきくどきいふに、母いとゞ悲しく覺えて、故殿におくれて、一日片時もいきて有るべしとも覺え侍らざりしかども、そちに心をなぐさめてこそ、すぐす事にてあれ、世の中のあるにもあらずまづしきわざは、實こゝろ苦しく侍れども、さればとて又命をなき物になすべきにあらずなんと、ねんごろに涙もせきあへず聞え侍れば、此子ももろともになみだをながし侍りけり、○略下

〔伏見宮御記錄利仙洞御移徙部類記四十七上十三〕三中記、建久九年四月廿一日戊子、參院、次參二條殿、歷覽華構之壯麗、非筆端之所及、○略中 舗設翠簾雜具等、近日天下緇素莫不營之、○略中 夕郎五人之中、不勤此役之者、予一人也、清貧與疎遠計會故也、

〔近世名家書畫談下〕雪山の軼事

雪山先生は肥後熊本の人なり、代々北島三立をもて稱す、○略中 雪山江戸にありし時は、潔癖甚しかりしに、長崎に歸りて後、十六年ゆあみせず、つめとらず、赤貧にして、儋石の儲けなけれども、崎